

夢

追

い

人

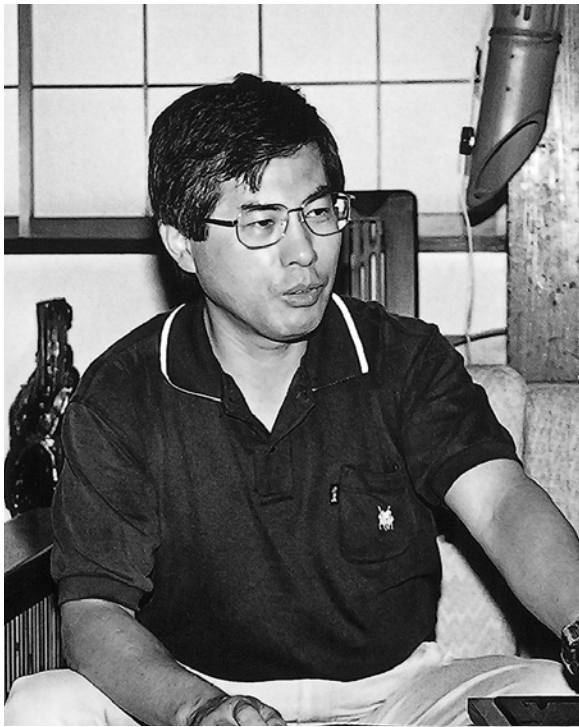
屋久杉は世界自然遺産に指定されている貴重な材です。一切の無駄がでないよう心がけています。



(有)古典木工

大川市榎津七三十一
電話 〇九四四一八七一二八九

社長 古賀 通弘さん



木工産地大川でも、「職人」が少なくなっている。「工具」はいても、昔ながらの伝統を受け継ぐ技術者は今や貴重な存在になりつつあるのだ。今回の夢追い人に登場していただく方は、職人の業を生かした家具づくりに取り組む、(有)古典木工の社長、古賀通弘さん。古賀さん自身も「職人」であり、優秀なデザイナーでもある。

昔ながらの指物的手法と建具の技術を駆使して造り出される製品は、日本家屋によく似合う。直線的な美しさと簡潔さ、それに木目の美しさは特筆すべきもの。それにほぼ全ての製品に屋久杉が使われている。確かに心引かれる。

「古典木工」の名称について、よく伝統的な和家具を生産していることと関連づけられますが、そうではないんですよ。実は先代の名前が古賀典夫だったことに由来しています。建具屋をしていた父から受け継いだ技術が今の製品造りにも





生きています。特に組子の技術です。それらを伝統的な和家具のスタイルに取り入れています。」

普通工場というと、機械による流れ作業を想像するものだが、古典木工の場合は職人の仕事場という感じだ。「助手を除く職人たちはそれぞれが異なる仕事をしています。雰囲気は派手でもなく地味なものです。仕事が好きな人たちばかりです。」

若手の育成には特に力を入れている。「ベテランの職人と若手をペアにして、職人としての技術、ノウハウを吸収できるようにしています。産地として職人が少なくなっているのが、十年後はいったいどうなるのか、本当に心配です。職人の養成は産地全体の切実な問題ではないでしょうか。もともと企業としても貴重な戦力です。」

屋久杉に話を向けてみた。古典木工では、原木の製材から工程が始まる。いわゆる板木という工程。「屋久杉は世界自然遺産に指定されている、貴重な材です。一切の無駄がないように心がけています。」

板木は非常に重要な工程で、

かなりの熟練が必要。「板木の際は気を遣います。屋久杉の原木は、場所によって性質が違います。たとえば、牛肉の場合、場所によってサーロイン、ひれ、ランプ、リブロースがあるのと同じです。ですから、部分の特性を生かして、ある部分はテーブル板に、別の部分は腰板あるいは、鏡板といった具合の取り分けます。しかもそれぞれに厚み、サイズ、寸法を十分考慮して裁断しなければなりません。ですから、板木は全ての工程を把握していないととてもできない作業です。」

古賀さんは製品の基本的なデザインを二手に引き受けている。ただ柔軟性もある。製造工程で職人からの提案があれば、デザインの直しをいとわない。優れた製品を目指しているからだ。

デザインにまつわる面白い話を聞いた。「実は眠っていると、き思い浮かぶことが多いんですよ。夢の中でも考えているんですね。」どうということだろう。「わたしの場合、製品造りの詳細なシミュレーションが思いの中できないと、デザインに手を付けません。どんな一連の工程

になるか、屋久杉のどの部分を活用しようか、寸法や厚みはどうしようか、など細部までに至るイメージができて初めて図面を起こすことになりました。だから、新製品デザインの時には、時間があるときは四六時中イメージを考え続けます。それが夢にでてくると思います。」

仕事に対するひたむきさを窺わせるエピソードだ。古賀さんには職人またデザイナーとして、優れた製品造りに、職人育成にこれからも力を注いでもらいたい。